

## 令和5年度 事業報告

### 1 概要

令和5年度における経済情勢は、新型コロナウイルス感染症が5月に第5類に分類されたことから、経済活動が徐々に正常化するのに伴い、人々の生活も活発になり、コロナ前の日常生活が戻り始めました。一方、ロシアのウクライナ侵攻をきっかけに、石油などの資源価格が上昇して高止まりをしており、円安の進行等に伴う物価上昇と相まって、1人当たりの実質賃金の月平均は前年度比2.2%マイナスになるなど、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしています。

このような中、令和5年度におけるシルバー事業の売上げは、公共部門は、約2億5,784万円で対前年比約101.7%と前年を上回る売上げを確保できました。しかしながら、個人を含む民間部門については、前年を下回る対前年比約97.0%の約4億2,740万円となりました。全体売上げは、約6億8,525万円で対前年比約98.8%と前年を約866万円下回る売上げとなっております。

昨年の当センターの経常利益は、公共等で大口契約が減少するとともに、会費値下げの影響で受取会費も減少しました。一方で、職員給与の一律10%カットの復元、空席であった事務局長の就任、センターの将来を見据えた嘱託職員の採用、就業コーディネーター3名との契約、(仮称)青江事業所整備の基本計画の作成等に伴い、給料手当、諸謝金、委託料等が増加するとともに、支払材料費等の増加、インボイス制度導入に伴い租税公課が増加したこと等の影響が重なったことで、通期では黒字は確保できたものの、昨年度を大きく下回り、約247万円の利益にとどまりました。

会員数の増強については、本年度は、対前年比約99.6%の1,445人と昨年度と比べて約0.4%のわずかな減少となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年間中止していた10月の岡山駅前でのキャンペーン活動を令和5年度には再開し、各支部での会員増強運動などを実施し、センター全体でも努力しましたが、増加に転じるまでには至りませんでした。しかし、会員を退いた後の特別会員としてシルバーに残られる方は、以前は5~6人程度であったものが、ほぼ昨年度並み12人を維持し、仕事だけでなく、生きがいや仲間づくりの場としてシルバーが認識されて来ているものと思われます。

また、懸案の安全就労については、傷害事故は、昨年度より12件減り、合計9件となりました。件数は減少していますが、作業中だけでなく作業への行き帰りにおける転倒事故は相変わらず多い状況です。賠償事故は、13件と昨年度より8件増えています。カルマー使用は定着しつつありますが、飛び石事故は6件ほど発生しており、カルマーや防護ネットなどの不使用による飛び石事故が見られます。そのため、新人講習会、研修会等による啓発活動や安全パトロールの強化に努めておりますが、新たな対策として、石トバサーズの導入などを検討中です。一方、剪定・伐採においては、道具等の積み下ろし時に近くの自動車等を損傷するような動作に伴う事故が大幅に増えています。

### 2 安全就業の徹底

安全就業を最重要課題として、「安全はすべてに優先する」ことを念頭に、就業中や途上の事故、損害賠償事故ゼロを目標に掲げ、安全・適正就業委員会を中心として、安全パトロールの強化、植木剪定での監視員の配置、新人研修の徹底、カルマー(草刈機)研修会等を実施しました。新人研修では、就業時に事故の多い剪定作業や草刈り作業での事故例を示し、会員に対し安全意識と自己の健康管理の高揚に努めてまいりましたが、賠償事故は13件で前年度比8件増加し、傷害事故は9件で前年度比12件の減少でした。今後はより一層、安全就業の徹底を図ります。

また、熱中症対策として、植木剪定や草刈りなど屋外の作業に従事する会員を対象に遮熱ヘルメットを支給しました。

### 3 適正就業の徹底

既存の請負・委任業務の再点検と必要に応じ「労働者派遣事業」への切り替え等の対応を行い、適正な就業形態に向けた是正措置を継続的に行いました。また、複数の会員によるローテーション就業の促進、長期就業の解消などのワークシェアリングを推進し、より多くの会員への就業機会の確保に努めました。

### 4 新規事業の受託等

市の福祉施策の実現に寄与するため、前年度に続き子育て支援に資するシルバー世代産前産後応援事業を行うとともに、介護予防・日常生活支援総合事業を行いました。

#### (1) 介護予防・日常生活支援総合事業

総合事業では、要支援1、2の認定を受けた人と事業対象者の人に生活支援訪問サービス（掃除・洗濯・調理・買物等の家事）を提供し、受注件数43件、契約金額約406万円の実績となりました。

#### (2) シルバー世代産前産後応援事業

子育ての経験を有する会員が、育児・家事援助を必要とする産前産後の世帯について、支援員として家事、育児のサービスを提供し、延べ利用回数1,365回、延べ利用時間は2,467時間、契約金額約229万円の実績となりました。

### 5 財務体質の健全化と業務の円滑化

シルバー人材センターの財務状況は良好に推移するなか、引き続き事業経営の健全化を推進し、財務体質の強化と業務の円滑化を進めました。

#### (1) 事務局体制の強化

仕事の受注や会員への仕事の紹介、配分金の支払い等の実務を担う事務局職員が退職等で減少する中、現職の職員も徐々に年齢が高くなり、近い将来、センターの業務を円滑に運営することが困難になりかねない状況となっています。このため、正職員化も視野に入れて、嘱託職員6名を新たに採用し、業務に当たらせています。今後も、業務に必要な研修の受講や職場内の実務研修（OJT）等により、職務能力の向上を図って参ります。

#### (2) 新たな就業開拓

令和5年度から就任した就業コーディネーター3名が中心となり、会員の就業相談に対応するとともに、民間企業を訪問して、会員の希望に沿った新たな仕事がないか探るなど、就業機会の開拓に努めました。

#### (3) インボイス制度（適格請求書等保存方式）への対応

令和5年10月からインボイス制度（適格請求書等保存方式）が導入されましたが、当面、会員の方が負担する分をセンターで負担することとしました。

### 6 会員数の拡大の推進

会員増強委員会を中心に、「会員一人が1人の会員を」の目標を掲げ、会員増強活動を行っており、令和5年度は、ここ数年新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった岡山駅前での会員増強活動を10月に実施し、マスコミにも取り上げられるなど、社会的関心を集めることができました。また、新たな取り組みとして、北支部を中心として市役所1階ホールでパネル展を開催する等、多くの支部で出張入会説明会などの会員増強活動を実施しました。また、各支部役員が中心となり、一般家庭へチラシの

配布活動や夫婦会員入会金免除制度をPRし、会員の拡大と就業機会の開拓に努めました。このように新たな会員増強活動も始めていますが、即座の市民等への浸透は難しく、全体の会員数は、1,445人となり、前年度末より6人減少し、前年比99.6%となりました。登録会員の平均年齢は、75.4歳で前年度より0.3歳高くなりました。

#### 7 シルバー人材センター事業の普及啓発活動の推進

市民と地域社会にシルバー人材センター事業を広く周知し、事業の発展・拡充を図るため、さまざまな機会を通じて普及啓発活動を行いました。

- (1)センター機関誌、リーフレットなどを発行し、会員、関係機関に配布し、シルバー事業への理解と協力を得ることに努めました。
- (2)市広報紙に記事を掲載するとともに、報道機関などに適宜情報を提供し、シルバー事業のPRに努めました。
- (3)多くの市民が集まる行事に参加し、当センターのチラシ、パンフレットを配布し、シルバー事業のPRに努めました。

#### 8 労働者派遣事業の就業機会の確保・拡大

企業等において、社員との混在就業や指揮命令下での就業が可能な「労働者派遣事業」の拡大に努めてきましたが、公共の大口契約の減少が影響し、契約件数は増えましたが、契約金額は減少し、十分な成果には至りませんでした。

#### 9 技能講習・研修会の充実

各種講習会を会員対象と一般市民に参加頂ける内容で、植木剪定講習会、飛散防止に効果的なカルマー（草刈機）講習会等の充実を図り、会員の技術・技能の向上と後継者の育成、さらに、新規会員獲得に努めました。

#### 10 情報の収集

シルバー事業の充実、発展を図るため、研修会などを通じ、県シルバー人材センター連合会の主催する会議に出席し、課題等に関する意見交換を行うなど、シルバー事業の活動状況の調査、情報の収集に努めました。